

第8回日中韓フォーサイト事業ワークショップ 磯部光孝

核融合科学研究所は、日本学術振興会・日中韓フォーサイト事業において採択されている研究交流課題「高性能プラズマの定常保持に必要な物理基盤の形成」に基づき、LHD（日本）、EAST（中国）及びKSTAR（韓国）間の国際共同研究を推進しています。本事業支援の下、共同研究の実施状況を報告し、具体的な研究計画を議論するためのワークショップを日中韓の持ち回りで年2回のペースで開催しています。核融合科学研究所主催による第8回会合が2015年12月1日から12月4日にかけて静岡県御殿場市にて開催され、3ヶ国から46名（内訳：日本19名、中国13名、韓国14名）が参加しました。本会合では、竹入康彦核融合科学研究所長、万宝年中国科学院等離子体物理研究所長により、今後の協力方針について確認がなされました。個々の研究課題については、以下の4つのカテゴリ、Ⅰ：「閉じ込め配位の定常保持」、Ⅱ：「周辺及びダイバー

タプラズマ制御」、Ⅲ：「高エネルギー粒子とバルクプラズマの相互作用」、そして課題を横断的に取り扱うⅣ：「理論・シミュレーション」に分けて行われ、活発な議論が交わされました。本事業では、若手教育も共同研究の重要な柱として位置付けられており、3ヶ国から大学院生の発表も多数行われました。次回は、2016年5月に中国・銀川市にて開催される予定です。

（高温プラズマ物理研究系 教授）



ワークショップ参加者の集合写真

第10回アジアプラズマ・核融合学会 大石鉄太郎

2015年12月14日から18日にかけて、第10回アジアプラズマ・核融合学会（APFA）がインド北西部グジャラート州の州都ガンディーナガルで開催されました。APFAはアジアでのプラズマ・核融合研究を促進し交流を深めることを目的として日中韓及びインドの4国が交代で主催し、隔年で開催されます。本会議では269件の発表が行われました。核融合科学研究所からは7名が参加し、3件の招待講演、と4件の口頭発表及び、1件のポスター発表を行いました。森崎友宏大型ヘリカル装置計画（LHD）研究総主幹は、核融合原型炉の実現を目指して日本国内で行われている設計活動について、2件の招待講演を行いました。会場からは多数の質問が寄せられ活発な議論が行われました。森田繁教授は、日中韓3ヶ国の相互交流による研究ネットワークの形成を目指す「日中韓フォーサイト事業」の進展について招待講演を行いました。筆者は、LHDプラズマの

周辺部において不純物イオンが空間的に非対称な分布を持つ現象について、分光計測の結果を中心に口頭発表を行いました。その他、インドのADITYAとSST-1、韓国のKSTARといったアジアにおけるトカマク型装置における研究成果発表や、フランスで建設中の国際熱核融合実験炉ITERに対するアジア諸国の貢献についての発表が数多く行われました。次回は2017年に岐阜県土岐市で開催される予定です。

（高密度プラズマ物理研究系 助教）



森崎友宏大型ヘリカル装置計画研究総主幹による招待講演